

令和5年度 学校評価（教職員）自己評価

北海道札幌西高等学校 定時制課程

1 主体性や社会性を育む教育活動の充実

重点事項	内 容	具体的な取組	実施状況	意 見	今後の方向性
<p>系統的なライフスキル教育の推進</p>	<p>日常で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力であるライフスキルを身に付ける教育を系統的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業等において、生徒が課題を解決するために協働して取り組む場面を意図的に設定。 授業等において、生徒が主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科・科目等の特質に応じた体験活動の場面を設定。 HR指導等を通じて、生徒が社会的な自立に向けた基盤を整えられるよう、生徒の適正や進路希望に応じ、関係機関を紹介するなどの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業等において、必要に応じて生徒が課題を解決するために協働して取り組む場面を意図的に設定した。 各教科・科目等の特質に応じた体験活動の場面を必要に応じて設定した。 総合的な探究の時間の1単位増単分において、特別支援教育コーディネーターにより年間通じて「コミュニケーションに関する分野と学習能力に関する分野」を各種トレーニングを取り入れながら今年度も実施してきた。 HR指導や個別面談等を通じて、生徒が社会的な自立に向けた基盤を整えられるよう、必要に応じて関係機関を紹介するなどの個に応じた指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的な自立に向けて、校外の関係機関と連携して個に応じた指導に当たっているが、家庭環境に課題がある場合については、なかなか解決策が見つからないことから、粘り強く対応していく必要がある。 中学時代100日以上欠席している生徒がかなりの割合を占めており、学校に普通に通うということが当たり前のことではないので、まずは学校生活への不安を取り除き、安心して登校できる環境づくりが重要だと考える。 食事や睡眠、スマホとのつきあい方など、基本的な生活習慣が確立されていない生徒が多いことから、まずはこれらのことを重点的に指導していく必要がある。 特別支援教育コーディネーターの綿密な計画と適切な指導のおかげで、生徒一人ひとりのニーズに応じた指導を行うことができ、生徒の成長を促すことができた。また、各生徒や指導についての情報の提供も十分になされ、教職員同士での情報の共有も適切に行われた。 定時制における少人数教育の利点を活かして、生徒一人ひとりが実験や実習等の体験活動に数多く取り組めるようにするために、必要に応じてタイムリーに支出できる実習教材費の予算措置があるとよい。 人とコミュニケーションをとることを苦手とする生徒が多いため、コミュニケーションスキルトレーニングは非常に有効と思う。 生徒の特性やニーズが多様であるため、個別面談等個に応じた対応は必要であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、児童相談所、生活保護課、若者サポートステーションなど横の連携が必要である。 生徒の成長を促すために、PTAの講演会だけではなく、進路でもコミュニケーションスキルや社会性をはぐくむために、講師を呼ぶなどしたい。 その際の予算措置についてお願いしたい。

<p>生徒の多様な分かり方を活かす授業づくり</p>	<p>多様な学習歴のある生徒一人ひとりが理解しやすい指導方法や指導形態を研究・工夫して、生徒のできる、わかる喜びを実感できる授業づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が互いに学び合うことができるよう、グループでの学習活動の基盤となる生徒同士の関係づくりを特別活動等において実施。 ・「単元テスト」は、実施時期が集中しすぎないように、日程を調整。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動等を通して、生徒同士の関係づくりを意識した指導を行った。 ・「単元テスト」の日程調整については、教科担任が各教室に実施時期を掲示することにより、科目同士の日程が重複しないよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや選択授業のなかで、「教え合う・誉め合う・認め合う」ことを積極的に取り組んでいるが、できる生徒から一方向の言葉が多く、双方向からはなかなか難しいという現状がある。 ・障がい等を抱える生徒に対し、理解しやすい指導方法や指導形態について、工夫する必要がある。 ・1人1台端末、Googleアカウントを十分に活用できる環境の整備が急務だと考える。 ・授業の内容を充実させるためにも生徒に副教材を持たせたいと考えている。 ・単元テストの日程については、日程を貼り出すなど「見える化」することで、各教科で調整ができた。 ・単元テストという枠にこだわらない評価のシステムもあって良いと思う。 ・全員に単元テストを実施しなくても評価可能となるように、生徒によっては他の課題にもって単元テストの代わりとしてもよいと考える。 ・単元テストの日程を調整することで、生徒が過度に負担に感じることなく実施できたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、校内研修等を通して理解を深めるなどしながら、継続して取り組む。 ・抽象的な概念を理解できないなど、学習に困難を抱える生徒に対し、授業以外の場面を設定するなどして、手厚く指導する方向を検討する。 ・学習評価に関する校内研修を実施し、教職員の理解を深める。
----------------------------	---	---	--	--	---

2 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着

重点事項	内 容	具体的な取組	実施状況	意 見	今後の方向性
個に応じた指導の充実	授業の中で一人一人の生徒の実態に応じ個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、T T指導など指導方法や指導体制を工夫・改善し、生徒の個に応じた学習ニーズに適応した指導を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に合った指導について、教材作成及び授業以外での個別指導も含め、各教科担当者が工夫しながら進める方向性の継続。 指導に乗ることができない生徒に対して、外部との関係機関と連携して適切な指導方法の研究。 学生ボランティアの力量及び意識の向上を図るための定期的な研修や毎日の打合せの実施。 学生ボランティアの有効活用については、学生の得意分野等を調査し、職員に適宜情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に合った指導について、教材作成含め、各教科担当者が工夫改善しながら行うことができた。 指導に乗ってこられない生徒に対する外部との関係機関との連携を行うことはできたが、指導法の研究は行うことができなかった。 今年度は大学生ボランティアではなく、学習指導員及び「教職実習」の形で札幌国際大学の学生を受け入れた。 学生の活用については、学生の力量向上のための研修等は実施できなかったが、必要に応じて業務前後に打合せを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌国際大学の学生さんに協力いただくことにより、体育の授業を充実させることができた。 大学生には用具準備・準備体操・種目の説明など、多岐にわたり積極的に生徒に関わりを持ってもらったが、もう少し長期的な実習の方が経験を積むためには良いのではないかと考える。 小中学校での学習内容が不十分な生徒が多いので、学び直しの機会をもっと充実させる必要がある。 学校生活や授業への関心が薄れた生徒への学習支援をおこなう際に、外部からの指導員の活用は良い刺激や援助になった。 生徒やクラス集団によっては、ペアワークやグループワークを厭うあまり、授業を欠席する生徒もみられたことから、教科担任だけではなく、学校全体で指導する必要がある。 一人一人の能力やニーズの違いが大きい中、個に応じた教材作成や個別指導など、非常に有効な指導がなされたと考えられる。 生徒の学習の実態差が大きいクラス集団に対しては、個に応じて指導を充実させるよう、教科によっては、習熟度別学習などの対応が必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に合った指導を教材作成含め、各教科担当者が工夫しながら進めるという方向性を継続するとともに、一部指導に乗ってこられない生徒に対して、外部との関係機関とも連携した適切な指導の充実を図る。 大学生ボランティアの有効的な活用について、学生ボランティアの意識向上を図ることができるよう、毎回短時間の打合せを行うとともに、事前指導も計画的に行っていく。
特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応	学習面や行動面あるいは対人関係に困難を抱えている生徒一人一人の実態を正確に把握し教職員間の情報の共有化に努め、一人一人に対応した、きめ細かな指導と支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒の支援の在り方について、関係機関と連携するなどした支援策の検討。 生徒の学校生活の充実に向けて、職員同士の連携及び職員と保護者との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる生徒について、関係機関と連携するなどして支援策を検討の上、対応することができた。 HR担任だけで対応するのではなく、教科担任などとも情報を共有するとともに、適宜保護者とも連絡を取りながら対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業において、危険回避の観点から、特別支援教育支援員と連携して対応したが、事故を未然に防ぐために、今後とも綿密に連携する必要がある。 教材プリントを拡大するなど、担当教諭の指導のもと支援策を実践しているが、その効果については、全く実感できていない。 特別支援教育支援員の支援が充実しているので、特別な支援を要する生徒への指導が円滑に進んでいるが、この体制を継続していくた 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援を要する生徒に対する「0時間目(始業前)」の活用が効果的であったことから、次年度も継続していく。また、学力向上のための0時間目の活用方法についても検討

				<p>めの対策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none">・特別な支援を要する生徒の対応については、特別支援教育コーディネーターを中心に関係機関と連携しながら、十分に行うことができたと考える。・生徒にどのような特性があるのか、どのように伸ばしていけば良いのかを、特別支援教育コーディネーターを中心とし、他の教員も一緒に考えていく必要がある。	<p>していく。</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修を充実させるなどして特別支援教育に関する教職員の理解を深められるよう、特別支援学校や道立特別支援教育センター等、関係機関との連携の充実を図る。
--	--	--	--	---	---

3 カリキュラム・マネジメントの視点を重視

重点事項	内 容	具体的な取組	実施状況	意 見	今後の方向性
学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	「よりよい学校教育がよりよい社会をつくる」との理念と「社会に開かれた教育課程」を実現するという新しい学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラデュエーション・ポリシー（卒業までに身に付けさせたい資質・能力）を中核に、学校の教育活動を進めるカリキュラム・マネジメントの確立。 ・ 生徒のコミュニケーション能力や社会性の向上に向け、「社会に開かれた教育課程」の趣旨を生かし、若者サポートステーションなどの関係機関との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度入学からスタートしたいわゆる新カリについては、局からの指導も踏まえて、見直しを図った。 ・ 生徒のコミュニケーション能力や社会性の向上に向け、卒業生講話や局のCPSSVによる進路講話等、関係機関と連携した取組を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に「公民科」の「公共」と「政治・経済」との関連など、単年度ではなく、4カ年を見通してのカリキュラム・マネジメントを意識したが、限られた時間の中で、何を優先させるか、取捨選択が難しかった。 ・ 外部機関との連携により、生徒の社会性や進路意識の向上が見られた。 ・ 外部講師や校外施設を利用する等、社会資源を最大限に利用して生徒のコミュニケーション能力や社会性を向上させる企画やアイデアが実現できるよう、講師謝礼や生徒交通費補助があるとよい。 ・ 関係機関とも連携し、生徒がそれぞれの進路を考えられるよう、適切に進路講話等を行うことができたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラデュエーション・ポリシーを中核に、学校の教育活動が実施されるよう、観点別学習状況の評価やルーブリックの取組を充実・発展させる。 ・ 生徒の変容を通して教育課程の成果を捉え、必要な改善を図るなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。
観点別学習状況の評価の充実	学習指導要領の規定に沿って作成された評価規準に基づいて学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」を充実させ、生徒の学習の改善と教師の指導の改善に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別学習状況の評価について、実践・研究を継続。 ・ キールーブリックに基づいて、教科ルーブリックや単元ルーブリックを作成して、生徒の頑張りや成長の適切な評価。 ・ 観点別学習状況の評価やルーブリックの取組について、石狩教育局等と連携しての研修会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に、教科ルーブリックや単元ルーブリック作成に向けた確認を行い、年間指導計画に盛り込むことができた。 ・ 石狩教育局と連携した研修会の実施を行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別学習状況の評価については、非常に苦慮していると感じている教員がいることから、今後も研修等を継続していく必要がある。 ・ 評価に対する共通認識がまだ足りないと思うので、校内研修会の機会が増えるとよいと考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科の特性や目標を確認したうえで、年間指導計画やルーブリック、評価規準等が定められ、概ね効果的に運用されていた。 ・ ルーブリックが示されることで、生徒にとっても到達目標の理解がしやすくなり、評価結果の納得も深まってきていると考える。 ・ 学習支援や授業改善についての校内研修は現状に合わせて実施したが、ルーブリックの活用について共有する場面がもう少しあっても良かった。実情として今年度は実施できる余力がなかった。次年度以降、タイミングをみて扱えるよう準備したい。 ・ 観点別学習状況の評価は、生徒を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックの活用方法などについて、教職員の共通理解を図るための校内研修を実施する。 ・ 観点別学習状況の評価に関する基本的な理解を深めるための校内研修を実施する。

評価すると同時に、教員自身の授業改善に役立てるために実施するものであることから、勉強をする場が設定できれば良いと考える。

4 開かれた学校づくり

重点事項	内 容	具体的な取組	実施状況	意 見	今後の方向性
PTAや学校評議員など関係団体等との連携	<p>学校評議員に対して教育方針や特色ある教育活動、学校評価などについての意見の把握し、教育活動の改善を進める。また、様々なPTA活動やホームページ等を活用した広報活動を通して、生徒の状況や教育活動の現状について情報発信し理解や協力を得る。さらに輔仁会、PTAなどの支援団体から生徒の教育活動に対する支援体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種学校行事（含生徒会行事）にPTA会長以外の役員へも案内し、学校に対する関心を喚起して保護者のPTA行事への参加率を高める。 「西定先輩と語る会」等を活用して若い世代を参加させ、組織の世代交代の促進。 PTA役員や学校評議員と定時制教員が直接語り合う機会の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA懇談会とSCによる保健講話を同日に実施したり、PTA協賛事業のアイヌ文化体験を開催するなど、保護者が関心を持てるような内容となるよう工夫した。 輔仁会定時制部会と連携し、「卒業生を祝う会」を実施予定。 長年勤めていただいたPTA会長が、今年度限りで退任の意向であることから、後任者を選定し、内諾を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAに係る各種行事が充実していた。生徒には、こうした行事等を通して様々な体験をさせたいと個人的には思う。 外部と連携して行われた行事や、講話を通じ、生徒が自分の適性や進路について考える場面を設けることができた。 PTA役員や学校評議員はもとより、連携可能な地域の施設・団体関係者等と本校教員が直接語り合う機会を設定することで、本校生徒の活動の様子が関係者に正確に伝わり、より効果的な形で連携協力ができるようになるのではないかと。 生徒の学校での様子を保護者の方に少しでも見ていただきたい。授業公開やPTA懇談会については、実施形態を変えても足が向かないかもしれないが、仕事や子育ての関係で学校側で設定する日時に来校できない保護者を想定し、たとえばPTA懇談週間（月間）や授業公開週間、夏季授業公開週間などのように設定するなどして、座学の授業ばかりではなく、講話や行事、HR活動の場面での生徒の様子を見ていただけたらと思う。 PTA関係事業については、保護者の参加を促すよう内容を工夫し、昨年よりは参加者が若干増えた。しかし、依然として参加率はかなり低いことから、PTA関係事業の在り方を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のPTA行事への参加率を高めるために、各種学校行事（含生徒会行事）にもPTA会長以外の役員へも案内するなどして、魅力あるPTA行事を模索していく。 輔仁会（同窓会）定時部会と連携して、「西定先輩と語る会」等の行事を継続していく。